

手厚い看護もむなしく、七十五歳の生涯を閉じました。信教坊さんは「わたしの墓はいりません。墓のかわりに疏水を墓だと思つて下さい。」といった久敬の遺言を大切にし、遺族の人たちを招んでりっぱな供養をしました。

昭和二十五年には第二安積疏水ができ、岩瀬地方や須賀川にも水があふれんばかりに流れてくるようになりました。そのため、今では、水に苦しむこともなく広々とした水田を安心してつくれるようになりました。

「あらたのし田ごとにつる月のかげ」の句碑と顕彰碑が須賀川と郡山に建てられました。小林久敬の遺徳は後の世にいつまでも語りつがれることになりました。

久敬はこうして安積疏水の開通に一生けん命力をつくしましたが、須賀川には皆さんが知っている浜田水路の改修につくした遠藤猪野右衛門貴休、大峰得三、滑川用水路を改修した桑名保治たちもおりました。